

アジア成長研究所 (AGI) 外部評価結果 (評価対象年度 平成28年度)

5=大変評価できる 4=評価できる 3=普通 2=あまり評価できない 1=全く評価できない (目的評価の評価点は実績評価点の評価者別の平均点(四捨五入))
 ※評価者と評価内容及び評価点の順序は不規則になっており関連性はありませぬ。

区分	評価項目	評価内容	評価点	評価平均点		
目的評価	A 献(1) 高度な知的基盤の強化を推進し、本市に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸国との更なる関係強化と協働を推進する意味においても、知的基盤を更に磐石なものにすることは、必須と認識している。 その為の活動に対し、評価出来る顕著な一例としては、目標を大きく上回る論文掲載や高い第三者評価があげられる。この事実からも貴所の活動成果が本市のアカデミズムへの価値向上に大きく貢献していることは言うまでもない。 ① 著名な学術雑誌への論文掲載数 27年4本→28年9本と倍増している。 ② 国際機関・内外の大学等への役員就任数 27年10件→28年19件とこれもほぼ倍増している。 ③ 外部資金獲得数 27年6件に対し、28年は3件と半減。金額ベースではどうか ④ 第三者による研究評価 27年:11位/171位→28年:14位/185位 トップ10%以内 ・所員の活発な研究活動により、多数の論文を発表し、それが学界で注目を浴びるなど、北九州市の知的基盤の強化に貢献している。また、研究事業では、北九州市とアジア双方にとって重要性の高いものをテーマとしており、評価できる。内外研究機関との連携強化も着実に取り組んでいる。 ・論文掲載数やRePEcでみる成果指標は目標を上回っており、高度なアジア研究を推進していると評価できる。ただ、これらは専門的な個別学会における個人の評価であり、本市の知的基盤と言っているかどうか、検討が必要ではないかと思われる。 ・活動計画である「国内外の研究機関との連携によるプロジェクトの拡充」、「研究成果の公表」、「外部評価制度の導入」は、いずれも十分に機能し、目的を達成している。 	5	4.8		
			5			
			5			
			5			
			4			
	B 献(2) 研究を通じて本市の成長戦略に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・市政・企業活動に関する調査研究は目標の3件に達していない。成長戦略フォーラムの高評価とのギャップを感じる。 ・北九州市の直面する重要課題である高齢化問題、人口流出問題について、独自性を持った研究を展開した。また、観光、グリーンテクノロジーといった成長力の高い分野に焦点を当てた研究を意欲的に行っている。更に、「成長戦略フォーラム」等を通じて、対外的な情報発信も積極的に行い、地元関係者に対しての意識付けや議論の活性化にも貢献している。今後は、他地域との差別化も意識し、産業集積の進んだ北九州市の特徴点に関連した研究の取り組み強化も期待したい。 ・そもそも北九州地域の課題を扱った調査研究が少ないため、活動計画に挙げている「市の政策に関する提言の推進」、「研究活動の地元経済への貢献」、「研究成果の市民・企業への情報発信の強化」が、いずれも十分にできていないといえる。なお、成長戦略フォーラムを通じて、国際社会や地域経済に関する情報を市民や企業に向けて分かりやすく情報提供しているが、これはあくまで目的に対して補完的な役割しか期待できない。 ・十分に貢献していると言える。期待としては、知財の開示とともに更に政策や戦略の決定に寄与し、益々影響を与えられる存在になって頂きたい。更に加えるとするならば、市民レベルへベクトルを向けた活動の浸透も工夫し、平行推進して頂きたい。 ① 市政・企業活動に貢献する研究件数 27年3件→28年2件と1件減 ② フォーラムアンケート「良かった」の割合 27年88%→28年96%と8%アップ ③ 成長戦略フォーラムへの企業参加割合 27年46%→28年45%と1%ダウン Aの圧倒的な高実績と比べると、市に対する貢献度はやや低い。市と研究テーマについて綿密な打ち合わせを行い、ベクトル合わせをすべきではないか。 	4	3.8		
			4			
			4			
			4			
			3			
区分	評価項目	評価内容	目的評価A 評価点	目的評価B 評価点	目的評価A 平均点	目的評価B 平均点
実績評価	① 成果指標実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全分野にわたり概ね目標を達成する中、主要項目の一部(論文掲載数、成長戦略フォーラムの参加者評価等)では、目標および前年度実績を大幅に上回っている。 ・成果指標は外部からの資金獲得を除き、圧倒的な高実績をあげているが市の成長戦略に貢献するという観点からは、やや物足りない。 ・設定した数値目標を達成している。 ・アジア研究については、ほぼすべての成果指標に対して目標値を上回っており、大いに評価できる。本市の成長戦略への貢献については、成長戦略フォーラム等をつづいた情報発信はよくできているが、市政・企業活動に関する調査研究数や市の政策委員会等への参画数が少ない。なお、目標値はそれぞれ10件程度あってもよいのではないか。 ・高く評価するが、学術報告と同様、市政・企業活動に貢献する調査報告にも注力して頂きたい。(バランスの問題かと思う) 	4	4	4.8	4.2
			5	3		
			5	5		
			5	4		
			5	5		
	② 報告書(AGI年度アウトプット活動内報)	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア研究については、質・量ともに十分である。欲をいえば、研究テーマの設定において、プロダクトアウトからマーケットインへの転換を今後期待したい。本市の成長戦略への貢献については、情報発信(提供)が主であり、調査研究が少ない。アジアに関する研究所としては申し分ないが、地域に根ざした研究所としてはもの足りない。 ・十分な実績を示され、多角的視点からなされた各種取り組みは高い評価に値する。 今後の課題は、貴所の活動内容と市の成長戦略の可視化できる相関にあると思われる。 ・「アジアの経済・社会」、「比較成長政策」、「都市と地域政策」を中心としたテーマとするとの考え方の下、選定された各テーマは、基礎的な研究として、学術的に貢献することが求められる点を考えれば、いずれも適切であると思われる。市の産業施策等に関連性の高いテーマへの取り組み強化も期待したい。 ・活動内容としては申し分ないが、もっと九州・北九州の調査研究をするシンクタンクとしての存在価値が増すと思う。 ・研究テーマの設定が研究員にまかされているように思われる。北九州市や会員のニーズを踏まえた研究テーマを設定する必要があるのでないか。 	5	5	4.8	4
			4	3		
			5	4		
			5	4		
			5	4		
	③ その他(RePEcランキング)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、トップ10%以内を達成しており、学術的には高く評価される。 ・昨年に比べて順位を僅かながら下げているものの、それでも第14位であり、学術的に非常に高いレベルであると判断される。 ・実績が目標を上回っており、国際的に高い評価を得ていることは明白である。 ・RePEcランキングはアカデミックな世界では意味があるかもしれないが、シンクタンクにとってどれだけ意味があるのか不明。 ・RePEcランキングは、高い地位を維持しており、学界からの評価・注目度は十分高いと考えられる。 	4	4.8	4.8	
			5			
			5			
			5			
			5			
	④ 成長戦略フォーラム結果	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のテーマはいずれもタイムリーなトピックであると評価できる。北九州市の特徴である産業都市特有の課題等に焦点を当てたテーマがあればなお良いと思う。アンケート結果は、極めて高い評価であり、その持続を期待したい。 ・フォーラム自体は評判がよいが、外部著名講師だけでなく、研究員が自らの研究成果をわかりやすく説明する機会があってもよいと思われる。 ・地域にとって魅力的なテーマが設定されており、その結果96%の方から「良かった」の評価を得ている。ここで挙げられているテーマが、市民が期待していることであり、本来AGIの研究員が取り組むべきテーマである。このことを研究員の方々へのくらし認識しているか、そこが課題である。 ・目標を実績が大きく上回っており、関わる方々の鋭意努力の結果と敬意を表したい。ここまで高い実績であれば、今年度の目標をもう少し高い値としてもよいのではないだろうか? ・テーマ設定は適切である。アンケート結果は96%となっているが、内訳は「良い」が82%、「まあまあ良かった」が16%であり、アンケート結果としては抜群とは言えない。 	5	4.6		
			5			
			4			
			5			
			4			
⑤ テーマメディア設定AGIの会	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みは重要だが、年2回ではマスコミに与える影響は限られる。 ・テーマは適切であり、メディアと貴所の協調関係は伺えるが、細やかな情報開示といった点で、更なる努力をお願いしたい。その点がやや見え辛い。 ・開催回数(2回)、テーマ設定ともに、やや物足りない。 ・テーマは、メディアおよび市民の関心を惹くもので適当。ただ、開催回数が大きく減っていることは残念に思う。 ・マスコミから意見を聴取することで、本市の成長戦略への貢献の視点から研究テーマ等がブラッシュアップされたならば、当研究会の意義はある。マスコミの意見がどのようにフィードバックされたか分からないが、実施回数2回は少ないように思われる。また成長戦略フォーラムやセミナーなどを積極的に開催しているため、広報活動の一環であるならば、当財団の陣容が限られている中で、取ってマスコミを対象にした当研究会は必要ないとも思われる。 	3	3.6			
		4				
		4				
		3				
		4				
⑥ 審議会等外部委員等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携や外部講義等、積極的に活動されており評価出来る。地域課題への更なる関わりを願う。 ・市の政策委員会への参画数が1件しかなく、少なすぎる。依頼があっても断っているのか、それとも依頼そのものが少ないのか。市の政策委員会は、地域貢献活動の成果の裏返しであり、バロメータともいえる。また地域の課題を知るよい機会にもなることから、積極的に関与する必要がある。大学への講師派遣は、北九州市立大学に偏っているため、市内の他の大学にもアプローチしてはどうだろうか。 ・重要な審議会等のメンバーに多数就任しているほか、地元大学を中心に講師派遣を行っているなど、外部との連携が強化されている。また、内外の研究機関3先と新たにMOUを締結したことも、評価したい。 ・大学や学会での報告等が多い。研究員による審議会等委員やメディアコメント等での発言力を高める必要があるように思う。 ・八田所長を中心に国家レベルで活動されている一方、九大、北九大等でも積極的に講義されている。 	3	4.2			
		4				
		5				
		5				
		4				

<p>総 評</p>	<p>・知的基盤強化と地域への知的貢献活動の拠点的存在として、貴所の在り様が更に磐石になったH28年度であった。特に第三者評価の高い結果については、本市がアジアの中核都市として名実ともに存在感を増し、様々な施策推進を行う為のモチベーションとなると思われる。あえて課題をあげるならば、今年度は活動の見える化を意識し、注力して頂きたい。研究論文発表等の学術振興のみならず、貴所が2年後に目指す状態として挙げている地域貢献に対し、まだまだ努力の要と伸びしろがあるように感じる。得てして、学術活動は、市民との意識乖離が課題とされるが、フォーラム等のトピック、テーマの選定に創意工夫することで、市民や企業との歩調が実現すると感じた。</p> <p>・アジアの成功事例を基に、北九州市の成長戦略の立案に繋げていく、また、北九州市での経験の掘り下げも含め高度なアジア研究を行い、アジアの他地域にも有益な情報(研究成果)等を提供していく、という双方向の取り組みは、地元密着とアジア域内貢献を両立しており、大変意義深い。こうした取り組みは、公的な性格を持ちつつ、行政の主体とは独立した機関が行うことに、適しているように思われる。AGIは、組織に課せられたミッションに真摯に取り組んでおり、リソースが限られていることを勘案すると、そのパフォーマンスは評価できるレベルにあると思われる。今後は、実態としての機能度(北九州市の成長戦略への貢献、高度なアジア研究の推進)の強化に努めつつ、リソースの制約も勘案して、重要かつ効果的な活動を優先して行うことも重要ではないかと思料する。</p> <p>・アジア成長研究所設立当初のコンセプトから現状は少し変わってきている事を踏まえ、北九州市のシンクタンクとしても、北九州市の政策立案・推進に資する調査・研究に一層取り組んでいただければ、市民にも幅広く浸透することになる。学術的なレベルの高さは文句なし。ただ、北九州市のシンクタンクとしての活動は、必ずしも活発とは言えない。北九州市のアジア成長研究所の活用の仕方にも課題があるのかもしれないが、北九州市と連携を密にし、ベクトルを合わせると、北九州市のシンクタンクとしての存在価値が増す事になるのではないかと。残りの年度は、地元をテーマとして調査・研究にも力を入れ、北九州市の政策立案・推進に貢献する事を希望する。</p> <p>・「高度なアジア研究を推進し、本市の国際水準の知的基盤の強化と発展に貢献すること」については、年々極みを増しており、大いに評価できる。一方、「研究活動をつうじて、本市の成長戦略に貢献すること」については、本市の成長戦略につながる調査研究や審議会等委員への参画が少ない。活動は成長戦略フォーラム等にいる情報提供に止まっており、改善の余地がある。</p> <p>・シンクタンクである以上、報告書を作って終わり、論文を書いて終わりではない。社会に入って、社会で使われて、役に立つことで評価されなければならない。AGIがどのようなアジア研究の拠点をめざすのか、アジアや日本、九州、福岡県、北九州市にどういう分野で貢献するのか、AGIの組織としての戦略が明確に外部に伝わり、その上でその戦略を担う研究員の一人ひとりの姿が見えるようになれば、AGIの存在感がさらに高まるように思う。</p>
<p>三年間の総合評価*</p>	<p>・アジア成長研究所の下記2つのミッションのうち、 1. 高度なアジア研究を推進し、本市の国際水準の強化、発展に貢献する 2. 北九州市の成長戦略に貢献する</p> <p>のバランスを、北九州市と従前以上に協議して頂きたい。学術的なレベルの高さは誰もが認める所であるが、そのような研究機関は他の都市にも存在する。アジア成長研究所が北九州市に設置されている事を勘案して、学術的なレベルの高さを北九州市の政策立案・実行に活かした活動をお願いしたい。</p> <p>・大学の経済学研究が専門化し精緻となっていくなかで、シンクタンクも大学と同じ方向を進んでいくべきなのか、検討が必要だと思う。学会や専門誌で認められる「アカデミック」な研究をめざしていけば、実社会のニーズにあった実践的な研究との乖離は大きくなるのではないかと。環黄海経済圏の研究をしていた頃は、大学、行政、企業が同じ問題意識をもって調査研究プロジェクトに参加していた。日中韓の関係が難しくなるなかで、今こそ実践的な役に立つ研究が求められているように思う。</p> <p>・数値データを経年比較しても確実に目標を達成しており、優秀な成果である。貴所の顕著な活動により、市の国際的な競争力が向上し、潜在力とされていたことが表層へ創出されてきたとも感じる。この先も貴所に期待され、求められる役割と与えられたミッションを確実・的確に把握し、機能の拡大がなされることを切に願う。更には、市民レベルへのアウトプットを今まで以上に望み、実効性の伴う提言への期待を寄せ、益々の貴所の発展を望む。</p> <p>・昨今の情勢を鑑みたと、本市がアジアの中核的な産業都市として持続的な成長を実現するために、なぜ国際水準の知的基盤の強化を図らなければならないのか、疑問である。地域への知的貢献、言いかえれば、地域が抱える課題に対する調査研究を推進することが何よりも重要であり、その手段として、国際水準の知的基盤を強化するのならば理解できる。これまでの活動をみて、当財団の目的が「高度なアジア研究を推進し、本市の国際水準の知的基盤の強化と発展に貢献すること」が『主』であり、「研究活動をつうじて、本市の成長戦略に貢献すること」が『従』になっていることは否めない。市民や企業が期待しているのは、その逆である。こういった状況を財団職員一人ひとりが自覚しなければならない。さらに調査研究に止まらず、自らプロジェクトを興し、実行する行動力と調整力を期待されていることも認識する必要がある。三年間の活動を振り返って、国際水準の知的基盤の強化については、十分な成果を生み出している。一方、本市の成長戦略への貢献については、成長戦略フォーラムを充実するなど、改善はみられるが、情報発信の域に止まるものであり、本質的な改善ではなく、さらなる検討が期待される。</p>

* 三年間の総合評価は、H26～28の三年度とも評価をした4名の評価者(羽田野氏、吉村氏、高木氏、松石氏)にコメントを依頼した。